

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

保育の工夫／墨田区立柳島幼稚園（東京都）

子どもたちの主体的な遊びを支える保育の工夫は、どのような体験に繋がっていますか？

今回ご紹介する実践は、子どもたちが例年充実させている遊び「色水遊び」に着目し、環境を設定しています。

主体的に環境に関わり遊びを進めることのできる保育の工夫により、子どもたちは様々な「試行」を楽しみながら、「色水遊び」に意欲的に取り組んでいます。そして、異年齢との遊びへと広がっています。



● 色水遊び／5歳児（6月）

● 保育の工夫

弁当後に戸外に出た子どもたちが興味をもてるように、園庭に色水遊びのコーナーを設定した。まずは草花から色が出る楽しさを十分に味わってほしいと思い、出す道具は、興味に添って使いこなせるように考慮して限定したり、様々な色の草花を多く用意したりして主体的に取り組めるようにした。

※茶色太字は「子どもが試行している姿」

✦ 色水を作ろう

昨年度の5歳児の姿を思い出し、すぐに数人が、「色水作るんでしょ？やりたい！」と興味を示して遊び出した。色水を始めた友達を見て、「私もやってみたい！」と次々に集まってきた子どもたちは、たくさんの草花を使い、色が出る楽しさを味わっていた。初めて経験する子どもは、友達の姿をまねて草花を取り、机上の物でトントンと叩いてみたり、上から押しつぶしてみたりしていた。上手く色が出せない子どもも、友達の姿を見ながら何度も繰り返して試していた。



草花を潰す子どもたち

✦ 色水できた

花びらも水もたくさん入れたい子どもが多く、ほとんどの子どもの色水が茶色や黄色っぽい色になる中、Aちゃんは偶然にも緑色ができ、「こんな色ができた！」と、保育者に言いに来た。その場にいた子どもは「見せて」と、とても興味を示していた。

● 保育の工夫

保育者は「本当だ！緑色ができたね」と認める言葉を掛け、周りの子どもにも「Aちゃん、緑色ができたんだって」と知らせた。

✦ きれいな色水

子どもたちは様々な色が作れることに面白さを感じた。Bちゃんは、使う花びらの色や量を変えながらいろいろ試していて、空き容器にやっと自分の好きなピンク色のきれいな色水ができたことに喜んだ。

● 保育の工夫

「緑色ができたということは、自分の作りたい色が自在に作れるのではないか？」と感じて遊び方が変容するという予想をした保育者は、子どもの喜びを共有したり、色水の美しさを伝えたりした。

✦ 試す

子どもたちは、「濃い色を作りたいから、お花をいっぱい入れよう」「オレンジを作りたいから、黄色の花が必要だと思う」「あ、お水ちょっと多かったかも」「うーん、思った色と違うなあ…」などと自分なりの目標に向け、使う草花を考えながら色水作りを楽しむようになった。

● 保育の工夫

保育者は子どもの考えを認めたり「オレンジを作るには、黄色だけでいいの?」「濃くするためには、水の量もポイントみたい」と考えを引き出す言葉を掛けたりした。

✦ 発見!

子どもたちは、「新色を作る」「同じ色を作る」など、それぞれの目標に向けて考え、試し、様々な発見に喜んだり驚いたりしながら、夢中になって色水遊びをした。



道具を使用し色水を作る子ども

● 保育の工夫

わずかな色の違いに気付いたり、混色を楽しんだりすることができるように、新たにスポイトや小さな透明容器を提示した。

✦ 新たな目標

Cちゃんはできた色水と比べ、自分が作った色水は何色かを調べた。自分の色水に名前が付くとさらに嬉しそうにし、保育者や友達に教える姿があった。そして「次はもえぎ色を作ろう」と、新たな目標をもって取り組む姿に繋がった。



色と色名の一覧表

● 保育の工夫

わずかな色の違いに気づき、さらに色への興味が深まるように、様々な色の名前が書かれた一覧を提示する。

✦ 4歳児と交流して

数日間、遊びを繰り返す中で、子どもたちは色の出し方や濃さの調節が次第にできるようになった。色水をジュースに見立て、「これ、ブドウジュース」「他の味も作ろうかな」と遊んでいると、4歳児も興味をもってやってくる。そのうち、

「いろんな味が作れるよ。何がいい?」と、4歳児から注文を受けて作ることを楽しむようになった。

+ 考察

毎年繰り返される遊びであっても、遊び始めるきっかけや興味を深める内容は、その時々の子どもによって違う。子どもたちの遊びや興味の実態を踏まえて、きっかけとなる環境を設定したことで、主体的な遊びになった。水の量が多くなる実態から、スポイトや小さな容器を、色に注目して楽しむ実態から、色見本の一覧表などを準備し、子どもに寄り添った環境の工夫をすることで、子どもたちは遊びを継続し、作りたい色の出し方や濃淡の調節ができるような知識や技能の獲得に繋がった。

無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」